

第6次芦別市総合計画審議会においていただいた主な意見と市の考え方について

6月6日に第1回審議会を開催し、会長に嶋大輔氏（芦別市体育協会推薦）、副会長に榎本新氏（市民公募）を選出して、市長から嶋会長に対し第1次素案について諮問を行い、龍谷大学土山教授による講演の後、市から第1次素案の概要を説明し、引き続き、基本計画（自治体運営）の審議を行いました。

以降、9月13日まで5回にわたり審議会を開催して基本構想、基本計画の審議を行い、また、毎回会議終了後に意見集約シートを配付して追加の質問・意見等を求め、第4回審議会において、意見等に対する市の考え方等の説明を行いました。

なお、審議会からいただいた意見と意見に対する市の考え方は、別紙のとおりとなっています。

■開催された審議会は、下表のとおりです。

回	日時	場所	審議事項等	出席者数
第1回	6月6日（木） 18:00～	総合福祉センター ふれあいホール	<ul style="list-style-type: none"> ・辞令交付 ・正・副会長の互選 ・総合計画（第1次素案）諮問 ・第6次総合計画の概要について ・基本計画審議（自治体運営） ・龍谷大学土山教授による講演 	16名
第2回	7月9日（火） 18:00～	市役所議会棟 第2・3委員会室	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画班別審議 A班 生活・環境 B班 産業・経済 	18名
第3回	8月8日（木） 18:00～	総合福祉センター ふれあいホール	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画班別審議 A班 保健・医療・福祉・介護 B班 教育・文化 	15名
第4回	9月3日（火） 18:00～	総合福祉センター ふれあいホール	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想審議 ・基本計画審議 ・全体確認 ・龍谷大学土山教授との意見交換 	15名
第5回	9月13日（火）	—	<ul style="list-style-type: none"> ・答申書（案）について 	20名

第6次芦別市総合計画審議会においていただいた主な意見と市の考え方について

1 第6次芦別市総合計画について、基本構想

No.	頁	第6次芦別市総合計画審議会からいただいた意見	意見に対する市の考え方
1	25	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な開発目標（SDGs）の考え方を取り入れたまちづくりにおいて、本市の考え方をどのように取り入れたのかを記述してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市においてもSDGsへの対応を明確にして、各種施策への展開を図りながらまちづくりを進めます。
2	29	<ul style="list-style-type: none"> ・第5次総合計画における推計人口から設定した目標人口15,000人に対する現状の検証結果について、明らかにする必要がある。 ・第6次総合計画において、推計人口を下回らないために取組む具体策を示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の人口の推移については、ほぼ推計どおり推移しており、住民基本台帳人口では、既に約1年早く推計人口に到達しています。また、学生などを中心に本市に居住実態が無くとも住民票を移していない方も相当数いるため、実態としてはさらに人口減少が進行しているものと認識しています。 ・今後、人口推計を下回らないための方策としては、各分野別に基本目標を掲げ、様々な施策を総合的に取り組むことで達成を目指すこととしています。

第6次芦別市総合計画審議会においていただいた主な意見と市の考え方について

3 基本計画 【自治体運営】

No.	頁	第6次芦別市総合計画審議会からいただいた意見	意見に対する市の考え方
3	34	・情報共有・市民参加と協働において、元気な高齢の方々による活動や地域ぐるみで支え合う体制づくりが今後ますます重要になると考えられるので、具体的な施策を基本計画や実施計画に記載してほしい。	・高齢の方々による地域ぐるみで支え合う体制を築くことは、とても重要なことと考えており、今後具体的な施策に向けての参考とさせていただきます。
4	34	・審議会などの市民公募委員について、女性の比率が高まるような公募方法として、男女の人数を定める募集方法などを検討してほしい。	・これまで各種審議会等における市民公募では、総体的に応募人数が多くないこともあり、性別により募集人数を定めることは考えておりません。 今後はできるだけ女性の意見が反映されるよう、引き続き、女性活動団体などへの応募を呼びかけていきたいと考えています。
5	36	・「まちづくり意見はがき」に関する取組みが市民に定着してきていると考えられるので、施策に記述してほしい。	・「参加と協働」に係る推進すべき施策として、 <u>「市民からの意見等を幅広く聞くため、まちづくり意見はがきなどの取組を継続して進めます。」</u> を追記します。
6	36	・第5次総合計画に記載されている「青少年と子どものまちづくりへの参加」、「住民投票制度の活用」などを記載する必要がある。	・「参加と協働」に係る推進すべき施策として、 <u>「青少年と子どものまちづくりへの参加を進めます。」</u> と追記します。 <u>「まちの将来にかかわる重要な課題について、住民投票制度の活用などにより、市民の意思を把握します。」</u> を追記します。
7	38	・露頭炭採掘事業について、現在の北海道電力(株)の火力発電所に関する方針を踏まえ、総合計画に記載することについての検討が必要である。	・露頭炭採掘事業の長期的な存続については、大変厳しい状況にあるものと認識しておりますが、地域経済や冬期間の除雪などの市民生活にも大きく関わることから、現在、関係市町とともに事業の存続に向けた要請活動を行っております。なお、現時点では今後の方向性が確定してはいないため、素案のとおり記述としています。 今後、情勢が大きく変化するような場合には、中間年（令和6年度）での見直しを検討します。
8	40	・行財政運営の方向性や施策に、業務の効率化に向けた改善の手法の一つとして、RPAなど時流の先を見据えたワードの追加や、組織の活性化をさせるために、市役所内若手職員横断的プロジェクトを作り、若い世代からの意見を汲み上げ反映させることなどの記述を加えてほしい。	・「行財政運営」に係る推進すべき施策として <u>「市の組織については、必要な人材育成をはじめ、RPAなどの最新技術を取り入れることなどによる業務改善、委託化などによるスリム化を図ります。」</u> と修正します。
9	43	・移住・定住に関わり、地域おこし協力隊について、地域をつなげ活性化させる貴重な存在として、より一層力を入れて取り組む必要があるため、具体的に記述してほしい。	・「移住・定住」に係る推進すべき施策として、 <u>「地域おこし協力隊などの移住希望者に対して、関係団体と連携を図りながら、さまざまな分野で地域の担い手として定着が図られるよう、受入れ体制を構築して支援します。」</u> と修正します。

10	43	<p>・空き家、空き地について、行政が住み替えなどのマッチングをサポートすることで、移住・定住に繋がるものと考えられるので、方向性や施策に記載する必要がある。</p>	<p>・「移住・定住」に係る推進すべき施策として、 「移住・定住の推進に向けては、市内企業への就職奨励金制度、持ち家奨励金制度のほか、<u>空き家・空き地情報バンク</u>を活用して、若い世代の結婚・出産・子育てに係る支援策などにより、総合的に取り組みます。」と修正します。</p>
11	43	<p>・関係人口については、企業版ふるさと納税制度の活用などにより、外からまちを応援してくれる方を増やす施策を盛り込んでほしい。</p>	<p>・「移住・定住」に係る推進すべき施策として、 <u>「本市にゆかりがあり、各界で活躍されている方にまちの応援団となっただく「星の降る里あしべつ応援大使」事業により、関係人口への取り組みを進めます。」</u>を追記します。</p>

第6次芦別市総合計画審議会においていただいた主な意見と市の考え方について

3 基本計画 【生活・環境】

No.	頁	第6次芦別市総合計画審議会からいただいた意見	意見に対する市の考え方
12	46	<p>・公共交通のJR根室線とバス路線について、道路と同様に市民の生活を支える重要なインフラであるが、国道や道道に対する要望とは異なり、JR北海道やバス会社と地元による相応の負担が必要であるので、推進すべき施策に市民を巻き込んだ取組を記述してほしい。</p>	<p>・バス路線の維持確保については、これまでの間、バス事業者や沿線自治体、関係町内会等と必要の都度、協議を進めてまいりました。 また、JR根室線については、JR単独では維持困難な線区とされており、今後も維持できる仕組みについては、利用促進策などの観点から、関係者により協議を進めており、現時点では、今後の地域負担のあり方などの方向性が不透明な状況であるため、素案のとおり記述とします。</p>
13	46	<p>・公共交通の高齢ドライバーの交通事故や運転免許返納が社会問題になりつつある。 高齢者が運転免許証を返納できない理由として、代替交通手段が乏しいことから、緊急性の高い課題として、高齢者が暮らしやすいまちづくりをどのように進めるか、具体的な議論と取組が必要である。</p>	<p>・高齢社会の進展に伴い、郊外における交通環境の整備が喫緊の課題となっていることから、引き続き芦別市地域公共交通会議において協議したいと考えております。 また、運転免許を持たない高齢者が暮らしやすいまちづくりをどのように進めたら良いのかについては、長期的にコンパクトなまちづくりを進めていく必要があるため、まちづくり懇談会などを通して市民の皆さんと議論を深めていきたいと考えております。</p>
14	51	<p>・公園遊具が近隣の市町と比較してとても古いので、高価であることは理解するが、何処か一箇所だけでも集中的に整備してほしい。</p>	<p>・本市の公園は、これまで人口増を見込み整備してきたことから、公園数と遊具数が多い状況です。 また、安全確保のため毎年実施している遊具点検においては、危険な遊具の補修などを優先していることから、古い遊具の更新が出来ないのが現状です。 現在、高齢者向けや子ども向けなど利用者のニーズに合わせてた公園の再整備計画を進めておりますので、ご意見のような公園が早期にできるよう努めてまいります。</p>
15	58	<p>・防災・減災について、「芦別市地域防災計画」には避難計画等はあるが、避難所開設に係るマニュアルはないので、作成について検討してほしい。</p>	<p>・現在、避難所マニュアルは持ち合わせていませんが、必要性があることは認識していますので、今後、作成をしてまいります。</p>

第6次芦別市総合計画審議会においていただいた主な意見と市の考え方について

3 基本計画 【産業・経済】

No.	頁	第6次芦別市総合計画審議会からいただいた意見	意見に対する市の考え方
16	62	・酪農について、第5次総合計画で触れていた酪農ヘルパーの記述が除かれているが、本市には酪農も多く点在しているため、それらに関する施策を記述してほしい。	総合計画の大きな括りでは触れないこととし、個別計画である農業振興計画において、計画の見直しで触れていきたいと考えています。
17	64	・農業について、学校教育との連携はとても大切なことであり、推進すべき施策に記述してほしい。	・「農林業」に係る推進すべき施策として、 「農業経営基盤の強化については、 <u>国の制度や市の制度である営農改善事業資金の利子補給等の助成措置を活用し、生産団体の取組、学校教育との連携や農業まつり等のイベント実施の取組みを通じて、農産物のブランド化、高付加価値化や農商工連携を進めて経営の安定化が図られるよう支援します</u> 」と修正します。
18	65	・林業について、「森林資源の有効活用」から一歩進み、施策に「木材産業システムの構築」の視点を組み入れた施策を記述してほしい。	・現行の第5次総合計画で重点目標達成に向けた方向性として「木材の生産から加工・販売に至る木材産業システムの構築」を掲げておりますが、地域内での木材の生産から製造（加工）、流通・販売に至るシステムの構築は、難しいものと判断しております。

第6次芦別市総合計画審議会においていただいた主な意見と市の考え方について

3 基本計画 【保健・医療・福祉・介護】

No.	頁	第6次芦別市総合計画審議会からいただいた意見	意見に対する市の考え方
20	74	・保健について、小中学校でがん教育の授業を行っているので、生活習慣病についても取り上げる教育を行うことで検診、食育、医療へと話しが繋がりやすいと考える。	・市内小中学校で行っているがん教育の中では、がんを予防することは生活習慣病を予防することにも繋がるということを伝えています。 具体的には、適切な食生活や運動習慣、規則正しい生活リズムの確立の必要性について説明しています。 また、自分自身の生活習慣を振り返り、今の自分にできることを考える機会を設けています。
21	74	・医療について、公的医療機関である市立病院をまちの規模に見合った経営形態に見直していく必要がある。今後も市外から合宿誘致を継続していくためには整形外科は必須であり、医師の確保に向けた取組みを記述してほしい。	・市立病院としても整形外科常勤医師の確保は喫緊の課題であると考えておりますので、大学などへの医師派遣の要請を引き続き行ってまいります。
22	74	・医療について、小児科がないことに不便を感じており、週1、2日程度でも良いので医師が来てくれれば助かる。子育て世代を増やしていくためには必要な取組みであり、移住のための重要なポイントである。	・市内には、小児科を標榜する医療機関は3つあるものの、小児科専門医は市内にはおらず、子育て世代の皆さんにご不便をおかけしているところではありますが、新しい臨床研修制度が始まって以降、小児科医師を目指す医師が減っており、小児科医師の確保は難しいところがあります。なお、現在市立芦別病院のあり方検討委員会における診療規模などの検討の中で、出張医師による診療体制についても議論をしているところです。
23	78	・高齢者福祉について、本市は市民2人に1人が高齢者となる時代となっているので、高齢者自身が主体的に地域社会に参加できる仕組みづくりがほしい。	・幼少期はもとより、高齢者自身を含めた市民全体が共通理解・共通認識にたって地域づくりを進めていく必要があると考えます。 なお、小・中学生を対象にした認知症理解のための講座を実施する動きも出始めておりますので、認知症に限らず、高齢者福祉のことを身近に考える機会・環境づくりが必要であると考えます。
24	78	・高齢者の介護予防事業や一般の健康増進に関する事業などの一体的な取組みによる健康寿命を延ばす取組みを記述してほしい。また、認知症患者が増加することが推測されることから、高齢者福祉、あるいは介護の項目に認知症予防などに関する取組みを記述してほしい。	・今後は、介護予防と健康増進を一体的な事業として捉えていくことが求められると理解しておりますが、現時点では具体的な検討・協議には至っておりません。 また、「認知症の予防」については、医療的に確立されていないため、生活習慣の見直しなど間接的な取組が中心になるものと理解しておりますので、認知症に対する理解と支援に重点をおきながら「介護予防」という視点での包括した考え方で取り組んでまいります。
25	82	・高齢者福祉について、緊急通報システムに関する現状の制度では不便を感じているため、システムの運用に関しての再検討が必要である。	・「福祉・介護」に係る推進すべき施策として、 <u>「高齢者の日常生活におけるさまざまな困りごとを把握するとともに、それらを軽減するための支援の充実と支援体制づくりの促進を図ります。」</u> を追記します。

第6次芦別市総合計画審議会においていただいた主な意見と市の考え方について

3 基本計画 【教育・文化】

No.	頁	第6次芦別市総合計画審議会からいただいた意見	意見に対する市の考え方
26	92	・百年記念館と図書館は、生涯学習の「場」「拠点」であることから、具体的な施策を記載してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会教育」に係る推進すべき施策として、 ・「<u>生涯学習の拠点施設である百年記念館においては、資料の収集～効率的な運営に努めます。</u>」と修正します。 ・「<u>生涯学習の拠点施設である図書館については、社会情勢や流行による選書に努め、読書に親しみ、楽しんでもらえる各種事業を開催します。また、良好な読書環境の提供するため、効率的な運営に努めます。</u>」を追記します。
27	93	・5月20日に文化庁から日本遺産に認定された「炭鉄港」に関する記述を追加してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会教育」に係る推進すべき施策として、 ・「<u>※9・10・11は、令和元年に文化庁が認定した日本遺産「炭鉄港」の構成文化財です。</u>」を追記します。
30	98	地域に根ざした教育の取組みを盛り込んでほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組については、毎年度策定する学校教育推進計画の中で記述することとし、地域に根ざした教育の推進に関して、総合計画の記述としては「<u>地域とともに、豊かな心と郷土に誇りと愛着を持つ子ども達</u>」の育成という記述に含めるものとします。
28	99	・高等学校教育の推進に係る施策として、高等学校の入学生の確保に向け、「生徒の教育活動の様子を地域に向けて情報発信し、住民と学校の双方の交流を支援すること」を追加してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育」に係る推進すべき施策として、 ・「<u>生徒の教育活動の様子を地域に向けて情報発信し、住民と学校の双方の交流を支援します。</u>」を追記します。
29	99	・専門学校・大学教育の推進に係る施策として、高等学校の入学生の確保に向け、「学生の教育活動の様子を地域に向けて情報発信し、住民と学校の双方の交流を支援すること」を追加してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育」に係る推進すべき施策として、 ・「<u>学生の教育活動の様子を地域に向けて情報発信し、住民と学校の双方の交流を支援します。</u>」を追記します。